

令和8年度島根県立大学人間文化学部

学校推薦型・総合型選抜 社会人・学士 帰国生 私費外国人留学生特別選抜 保育教育学科 小論文問題

【問題】

次の文章は、発達障害について筆者の考えを述べたものである。この文章を読んで以下の設問に答えよ。

〔設問1〕

次の文章を読み、かいとくんが小学校に入学したら、どのような不安や困り感を持つと考えられるか、かいとくんの立場で300字以内で論ぜよ。

〔設問2〕

次の文章の内容を踏まえ、かいとくんが学校生活を安心して過ごすことができるように、かいとくんや、かいとくんの保護者と、就学前後にどのようなかかわりをもつことが求められるか、望ましい保育者教育者の行動を500字以内で論ぜよ。

就学先に迷う、かいとくん（6歳半・年長児）

かいとくんは言葉の育ちが少しゆっくりで、「これをやったら、次にこれ」といった見通しをもって行動するのが苦手です。3歳のときに「自閉傾向があるかもしれない」と言われ、現在も診断はあいまいなままですが、これまで月に1回療育に通い、お母さんは保育園の先生ともこまめに情報交換をしながら、熱心に子育てをしてきました。お父さんもとても協力的です。

以前は、保育園で次の活動に移るタイミングで大泣きをしたり、行事などいつもと違う活動があるときは、不安で参加できないこともありましたが、でも、療育の中で「次に何があるか」をかいとくんにわかりやすく伝える方法を教わり、家庭でも保育園でも1日の予定表を作って一緒に確認する、初めての体験は事前に写真も見せながら伝えておくといったかかわりを徹底することで、少しずつ安心して日々の生活を送ることができるようになってきました。言葉も増え、今では会話にほぼ支障はありません。

かいとくんはずいぶん成長しましたし、同じクラスの友達と一緒に進学することをとても楽しみにしています。両親もできれば通常学級に行ってほしいと思っています。就学相談では「問題なし」と言われ、「通常学級希望」と伝えました。

ただ、担当の療育士からは「小学校の新しい環境で、かいとくんが混乱してしまうかも」「最初は支援学級で、慣れてきてから通常学級に移るという方法もある」「3年生くらいになって勉強に追いつけなくなることもあるかもしれない」と言われました。

保育園の先生も「これまではフリーの職員が個別にかかわれたけど、小学校に行くとそうはいかないと思う」と言います。でもやはり、両親としては「みんなと一緒に」を願ってしまいます。かいとくんのお兄ちゃんが、弟が支援学級にいることからかわれないかという心配も正直あります。どういう選択肢がベストなのでしょうか。

「未来予想図」をよい方向に向けていく力

僕たち大人は、子どもが育ってきた「今までの経過」をとらえ、そこから考えられる「今、とりあえず最善と思われるかかわり」をすることでその子に安心を提供し、少しでも自信をもってくればと願っています。

同時に、何年か先の予測を立てることは可能ですが、それはあくまでも予想です。その未来予想図は最悪から最善まで大きな開きがあります。予想図を少しでもよい方向に向けるには、「今」を認め、「未来」を信じ、焦ることなくできることをコツコツと提供し続けること。何かあればできるだけ早くに関係者と相談して、事態の收拾を図るように努力することが大切です。そして、そこで最も力になるのが、その子を理解しようとする他者の存在です。

かいとくんは保育園で育ち、他者との生活を学びました。自分で見通しをもつことは苦手でも、提供されれば安心して生活することができる。先生がそんなかいとくんの姿を的確にとらえ、必要なかかわりがなされていくにつれ、かいとくんは自信をもって人とやり取りする言葉を増やして、一緒に進学したいと思える仲間を得ることができました。

そして、両親も就学の相談関係者も大きな問題を感じることなく、かいとくんは通常学級で学ぶことができそうだと判断したのです。

しかし、ずっとかいとくんのことを応援してきた保育園の先生や療育の担当者は、一抹の不安を抱きます。「新しい環境にかいとくんが戸惑わないだろうか、混乱してしまわないだろうか……」と。

出典：田中康雄『「発達障害」だけで子どもを見ないで その子の「不可解」を理解する』SB新書、2019年（一部改変）